

厚 木 市 消 防 審 議 会 次 第

日 時 令和8年3月12日(木)
午後4時から
場 所 消防本部3階会議室

1 挨拶

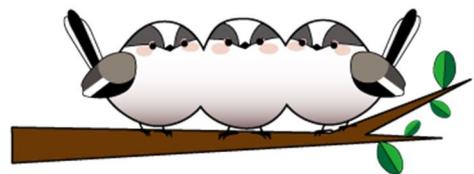
2 議題

(1) 令和7年中の厚木市の火災と救急の概要について【資料1】

(2) 令和8年度当初予算(消防本部の主要事業)について
【資料2】

(3) その他

3 その他



市の鳥 エナガ

令和8年2月1日 制定

《火災件数は、前年と比較して19件増加》

令和7年中の火災件数は72件で、前年に比べ19件増加となっています。

火災件数の種別ごとの内訳は、建物火災が30件（全火災の41.7%）、河川敷の枯草などが燃えたその他の火災が27件（37.5%）、車両火災が15件（20.8%）、林野火災が0件（-）となっており、前年と比較すると建物火災は10件増加、林野火災は1件減少、車両火災は7件増加、その他火災は3件増加となります。

火災発生原因別では、たばこ、電灯・電話等の配線、放火が上位を占めており、空気が乾燥する1月から3月に31件（43.1%）火災が発生しました。

冬季を中心に火災の発生件数が増加する傾向にあるため、巡回広報等を強化するとともに、様々な機会を捉えて情報を発信して防火対策を推進し、「火災のない安心・安全なまちづくり」を目指します。

1 火災種別死傷者発生調

死傷者等		火災種別					合計
		建物	林野	車両	その他		
2025年	件数	30	0	15	27	72	
	死者	3	0	0	2	5	
	負傷者	4	0	0	0	4	
2024年	件数	20	1	8	24	53	
	死者	0	0	0	2	2	
	負傷者	3	0	0	3	6	
比較	件数	+10	-1	+7	+3	+19	
	死者	+3	±0	±0	±0	+3	
	負傷者	+1	±0	±0	-3	-2	

2 火災発生原因別調

年別	区分													合計	
	たばこ	たき火	火遊び	こんろ	放火	放火の疑い	風呂かまど	ストーブ	マッチ・ライター	煙突・煙道	電灯・電話等の配線	配線器具	その他		不明・調査中
2025年	10	5	1	4	6	3	-	2	-	-	8	1	22	10	72
2024年	5	5	1	1	12	2	-	1	1	1	1	2	19	2	53
比較	+5	±0	±0	+3	-6	+1	±0	+1	-1	-1	+7	-1	+3	+8	+19

令和7年中における救急の概要

《救急件数は、前年と比較して239件（1.6%）増加》

令和7年中の救急出動件数は14,978件で、前年に比べ239件（1.6%）の増、搬送人員は13,146人で、前年に比べ202人増となり、1日当りの平均出動件数は約41件、搬送人員は約36人で、これは約35.1分に1回の割合で救急車が出動したことになります。

事故種別ごとの出動件数は、急病が10,054件で全体の67.1%を占め、次いで転倒などの一般負傷が2,032件で全体の13.6%、交通事故が905件で全体の6.0%の順になっています。

派遣型救急ワークステーションにより、医師が同乗し出動した件数は124件となり、医師による迅速な医療行為が行われました。

これまで過去最多の出動件数だった令和6年の年間14,739件を上回る件数となりました。

救急件数の増加の要因として、高齢化の進展やインフルエンザなどの感染症等による搬送が増えたことが考えられます。

救急件数等

区分 年別	救急件数	搬送人員	救急ワークステーション 医師同乗出動件数
2025年	14,978	13,146	124
2024年	14,739	12,944	170
比較	239	202	-46

救急種別		急病	一般負傷	交通	その他	合計
件数等						
2025年	件数	10,054	2,032	905	1,987	14,978
	搬送人員	8,933	1,881	854	1,478	13,146
2024年	件数	9,858	2,086	962	1,833	14,739
	搬送人員	8,780	1,923	938	1,303	12,944
比較	件数	196	-54	-57	154	239
	搬送人員	153	-42	-84	175	202

令和8年（2026）度
当初予算
消防本部の主要事業について

消防本部

カテゴリ ① 消防体制の充実

激甚化、多様化する災害に迅速・的確に対応し、あらゆる災害から市民の命と財産を守り抜くため、消防・防災の拠点施設である厚木消防署本署庁舎の建て替えをはじめ、災害対応の中核を担う高機能消防指令センターや消防車両、消防資機材を整備するとともに、地域防災の要である消防団の活動環境の充実を図ります。

Pick Up

S 安心・安全

◆ 厚木消防署庁舎整備事業費

新規

72,809千円

○ 厚木消防署本署庁舎については、昭和47年に竣工、築53年が経過し、老朽化や車庫の狭隘化など機能面に課題があることから、新たな消防防災の拠点施設として機能を確保するため、現在地での建て替えに向け、敷地地盤調査及び解体・新築設計を実施します。



消防体制の充実

S 安心・安全

◆ 高機能消防指令センター整備事業費

継続

0千円（債務負担行為）

○ 高機能消防指令センターは、平成28年度から運用を開始して、令和7年度末に耐用年数10年を迎えることから、次期高機能消防指令センターを複合施設（あつめき）に更新整備し、消防通信指令の更なる充実強化を図ります。



完成イメージ

S 安心・安全

◆ 緊急消防援助隊活動事業費

継続

2,396千円

○ 能登半島地震や岩手県大船渡林野火災への緊急消防援助隊派遣による教訓を踏まえ、過酷な環境下での長期に及ぶ災害活動に備えるため、必要な消防資機材の整備を行い、本市での災害対応をはじめ、緊急消防援助隊としての強化を図ります。



カテゴリ ② 救急体制の充実

高齢化の進展や社会情勢等の変化により、増加する救急需要に対応するため、引き続き、応急手当の普及啓発を推進するとともに、医療機関と連携した救急DXの運用を開始し、救急体制の更なる強化を図ります。

Pick Up

S 安心・安全

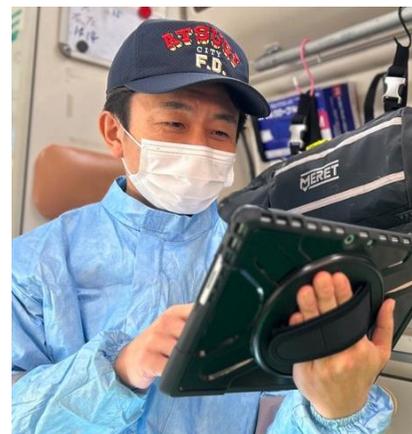
◆ 救急DX推進事業費

新規

29,540千円

○ 救急現場において、搬送先医療機関を決定する際、これまで、電話と紙で受入要請を行っていたが、新たに本事業を導入することで、救急隊が必要な傷病者情報をタブレット端末に入力し、その情報を医療機関とクラウド上で共有することにより、円滑かつ迅速な救急搬送の実現を目指します。

○ 救急隊員の労務負担など、救急が抱える多くの課題に対し、本事業による救急業務の効率化を強力に推進することで、安定的かつ持続可能な救急業務を提供します。



カテゴリ ③

火災予防対策の推進

火災を未然に防ぎ被害を低減するため、市民の防火意識を更に啓発し住宅防火対策の推進と事業所への立入検査や防火指導を積極的に実施し、防火管理体制の強化を図ります。

また、電子審査をはじめ、デジタル機器を用いた消防検査を実施し、火災予防分野におけるDXを推進します。

Pick Up

S 安心・安全

◆ 少年消防クラブ運営事業費

新規

1,992千円

○ 幼少期において正しい防火、防災に関する知識や技術を身に付け、家庭から地域への防災力の強化を推進します。

○ クラブ活動を通じて、積極性や自発性を養い規律正しい防災のリーダーの育成を図ります。

